

# 令和4年度 事業報告書

## I 全般

岡部俊哉新理事長の下、公益法人としての誇りと自覚をもって、公益目的事業を積極的に推進し、国防思想の普及啓発に努めた。

令和4年度の事業は、年度の事業計画及び収支予算に基づき実施し、新型コロナウイルス感染事態の影響を最小限にして概ね計画通り実施できた。

## II 事業

### 1 国防思想の普及啓発事業

国防思想の普及啓発を図るため、6回計画した講演会は5回実施にとどまったが、機関誌の頒布及びホームページの運営等の事業は計画通り実施した。

#### (1) 国防問題講演会の開催

計画的に5回の講演会を実施した。そのうち4回は現職隊員の講演であり、時宜を得た現場体験者の講演であった。

講演回数は減ったものの「国防問題に対する認識と理解を深め、国防思想の普及啓発」については一定の成果を得た。

年月	講師	経歴	演題	聴講者
令和4年 6月10日	武居智久	元海上幕僚長	徹底検証！台湾海峡危機 ～日本は如何に抑止対処す べきか～	76名
令和4年 7月23日	岩切主税	前中国防衛駐在官	中国防衛駐在官勤務を終えて～ 現地の温度差と肌感覚を 交えた中国の実情～	45名
令和4年 9月26日	岩丸栄樹	防衛白書室長	令和4年版防衛白書説明	50名
令和4年 10月24日	土本英樹	防衛装備庁長官	防衛装備品の現状と将来	63名
令和5年 1月23日	兵頭真治	防衛研究所 防衛政策班長	ロシアによるウクライナ侵攻 の衝撃-日本の安全保障に 与える影響-	86名
合計 (前年度)				320名 (328名)

(2) 機関誌「日本の国防」の頒布

機関誌「日本の国防」を計画通り新年号として（第139）発刊した。

この際、国会議員、企業及び自衛隊の機関に加えて、主要な公立図書館へも頒布を行った。

機関誌 「日本の国防」	頒布先			
	会員等	防衛省	議員・企業 等	図書館
令和5年1月 新春号 第139号	266部	3部	53部	5部

(※頒布先各幕監理部)

(3) 自衛隊施設等研修・見学事業

靖国神社参拝及び入間基地研修・見学を通じて会員及び一般参加者の国防問題に関する資質を涵養し、国防思想の普及を図った。しかし、新型コロナウイルス感染事態の影響で計画どおり実施することができなかった。

(4) 相談窓口業務

令和4年度は、準備期間と位置づけ、次のような検討を実施した。

- ・防衛省の共済組合等への仲介業務
- ・フラグシップ※の創生（子供用絵本作成等）

※日本国防協会の相談窓口事業として最も目指す活動

(5) 調査研究

内外の国防に関する諸情勢の調査研究、国防のあり方の探求について調査研究委員長が機関誌に発表した。

(6) 関係団体等との交流

国防問題講演会や賀詞交歓会を通じ国会議員と防衛関係団体との交流を図ることができた。また、駐屯地・基地・自治体等に積極的に赴き慰霊祭・防災訓練等に参加し協会の存在意義を知らしめた。

(7) 広報業務

ホームページを更新して講演会の要旨等国防に関する各種情報を提供し、国防思想の普及啓発に努めた。

講演会開催をホームページで知った聴講希望者の若干増加を確認し得た。

### 3 幹旋品の販売事業

カレンダー及びバッジ（日の丸）の販売を通して、愛国心の高揚を図った。

幹旋品	販売個数(前年度)
カレンダー「躍動」	250部(109部)
バッジ「日の丸」	4個(4個)

## III その他

### 1 会員の増勢

広告の継続、会員募集掲載の機関誌「日本の国防」の頒布拡大、自衛隊施設等研修・見学事業の促進等に加えて、ホームページを通じて国防思想普及事業に連携する会員の勧誘活動を推進した。

会 員	新規入会数(前年度)	合計数
年度会員	28名(12名)	195名
永年会員	14名(2名)	55名
名誉会員	6名(0名)	24名
法人・法人特別会員	6社(0社)	17社
購読会員	0名(0名)	0名

### 2 理事会及び評議員会の開催

会議の種類	実施回数	実施期日
理 事 会	3	令和4年 5月25日(水) 令和4年 6月10日(金) 令和5年 1月23日(月)
評議員会	1	令和4年 6月9日(木)

### 3 事業内容の変更

財政基盤を改善するため収益事業「カレンダー等の販売」を廃止して、国防思想の普及啓発を更に推進する体制に整えた。

以上